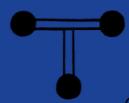


次元転換
される
超古代史



これが日本精神
《奥底》の秘密



[新装版]



正統竹内文書



の日本史「超」

アンダーグラウンド

2

竹内睦泰
秋山真人
布施泰和

オオクニヌシはユダヤ系／古代ユダヤと古神道は数の数え方が同じ／知られざるヒコホホデミ王朝／御門はガド族出身——『靈的不沈空母』日本のすべて！



ヒカルランド

はじめに——ますますヒートアップして、驚きの事実が明らかに

今回お届けするのは「正統竹内文書の日本史」鼎談シリーズの第二弾である。

第一弾では、正統竹内文書の口伝継承者である第七三世武内宿禰こと竹内睦泰氏が、古代日本および天皇家が、大和族、出雲族、ユダヤの三部族の融合により成り立ったことを「三つ葉紋の秘密」とともに初めて明かしてくれた。また国際気能法研究所代表の秋山眞人氏からは霊的な世界の実像や宇宙の三大原則にまつわる話が明かされた。ほかにも竹内氏がUFOを目撃し、UFOの存在を認めざるをえなくなった話や、秋山、竹内両氏とも幽体離脱で、もしくは魂として空を飛んだときに電線が非常に邪魔になること、天変地異、もしくは大洪水前の人類の超古代文明では十六の王家がかかわっていたこと、両氏とも七福神を実際に目撃していることなど次々と衝撃的な話が飛び出して、大盛況の鼎談となった。

そして何よりもうれしいのは、この鼎談シリーズを秋山、竹内両氏がとても楽しんで、かつとても喜んでくれていることである。秋山氏はこの本の出版により、長年連絡を取っていなかったかつての仲間が次々と集まって来るようになり、「青春時代がよみがえってきたような気持ち」になったという。一方竹内氏も、秘儀・口伝継承者として話せない部分が多々あるにも

かわならず、可能な限りその秘儀・口伝を話すと約束してくれた上に、出版の際には「大変重要な年なので、この異色シリーズで、〈動き〉を創りましょう」とのメッセージを寄せてくれた。両氏がこの鼎談シリーズをきっかけにして、ますます精力的に活躍されていることが、鼎談シリーズ提案者の筆者としてはうれしい限りである。

さて、この第二弾であるが、二回に及ぶ鼎談・座談会をまとめたものである。第一部は（二〇一二年）一月二十七日の鼎談を中心に章立てしたもので、主に古神道と西洋科学の歴史的な文明の衝突ともいえる問題を取り上げた。第二部は少し趣向を変えて、秋山氏の知人であり歌人の笹公人氏と、竹内氏の友人である裏千家準教授の町田宗愼氏をゲストに迎え、日本の伝統文化の背景にある風流・雅や哲学的思想を半ば靈的、シンボリックに読み解きながら宇宙論や古代秘史について語り合った四月二十五日の座談会の前半部分を収録している。今回もまた、アツと驚くような歴史の断片が明かされるとともに、深遠なる多次元宇宙の構造や、はたまた UFO 推進原理の秘密にまでテーマが及び、筆者も思わず席から飛び上がりたくなるような驚愕の事実が次々と明かされていくのである。その驚異の座談会の詳細は、この本を読んでいただくしかない。

筆者だけでなく、おそらく秋山、竹内両氏、それにゲストの方々も今回の鼎談・座談会を大いに楽しんでくれたのではないだろうか。日本がこんなにも奥行きのある、素晴らしい国で、

こんなにも楽しく、面白い国であることが読者に伝われば、幸甚である。

▼鼎談および座談会の出席者

秋山真人 国際気能法研究所代表。超能力者。

竹内睦泰 日本史の予備校講師。作家。第七三世武内宿禰の称号を持つ。

布施泰和 元共同通信社経済部記者。作家。

(ゲスト)

笹公人^{ささきみひと} 歌人。秋山氏と巨大UFOを目撃。

町田宗愼^{ちゅうだ そうしん} 裏千家準教授。竹内氏の友人。新宿区

で茶道具店経営。竹内氏はあだ名として宗匠と呼

んでいる。



1 はじめに——ますますヒートアップして、驚きの事実が明らかに

第一部 古神道と数秘術と西洋科学

第一章 数・占術をめぐる東洋と西洋の文明的衝突

- 20 神懸かりしたときの絵とユリ・ゲラーのシンクロ
- 26 古神道の秘儀ではイチイは「1」であり、神を降ろす数字だった
- 30 ユリ・ゲラーが見る「1」は天、宇宙のことだった

第二章 正統竹内文書の古代史と地球秘史

- 34 「7」は山であり、安定と同時に不安定を表わしている
- 38 西洋の科学・数学こそオカルトであった！
- 43 秋山真人、日本の教育問題に切り込む
- 48 国政の裏で活動する占術師や易断家
- 51 元祖女王陛下の007は魔術師ジョン・ディー
- 54 「バケラッタ」でも通じる日本の文化交流術
- 68 やはりオオクニヌシはユダヤ系だった
- 72 頼朝の隠し子がつくった『独立国家・薩摩』
- 77 天磐楠船は巨大な戦艦大和のような船だった
- 82 口伝と言っても実は文書に残していた！
- 84 出雲神話に出てくるワニは水軍のこと
- 87 古代史の謎もリムランド理論で解ける
- 93 出雲の亀甲紋とUFOの怪しげな関係

第三章 神秘体験と秘儀・秘術

97 地球人は絶滅危惧種のトキのようなもの

102 霊的ブリザードがやって来る旧正月の秘密

105 誕生日と本名は明らかにしてはいけない

109 秋山、竹内両氏が体験した不思議な異次元世界

114 旧正月に感じた南海地震の予感

117 超常現象が起きやすい特異日がある

121 戦いに勝つには天文博士が不可欠

126 盟神探湯に失敗！ 武内宿禰、一世一代の不覚

129 門外不出の秘伝を明かすと顔から血が出る

第四章 古代人の知識・技術と能力

132 ケルト文様と縄文は神仕組みを表していた！

第五章 精神世界と現代人の系譜

- 137 一つ目の巨人と科学技術には関連があった
- 139 古代史に現れる巨人族と鉄器の物語
- 141 濁音に込められた政治権力的な意図
- 145 漢字の熟語とハンデル文字は日本製？
- 150 漢字はサブプリミナルのシンボルだった！
- 154 石や陶器の配置に秘められた不可思議な力
- 157 天香具山の土は呪術のために必要だった
- 159 さざれ石は古代人がつくったコンクリートだった！
- 162 日本にはやはり古代ピラミッドがあった！
- 166 土や鉱物に関する古代日本人の技術は優れていた
- 168 西洋にとって脅威だった日本の「体験と直観の物理学」
- 171 ぜひ日本の歴史に注目してほしい

174 秋山真人、不老不死の秘訣を語る!?

- 181 二〇代、三〇代の若者に物申す「鯉や鯛になれ！」
- 185 秋山真人「ずっと精神世界の無頼で行きたい」
- 188 武内宿禰、秋山氏を精神世界の総理に推挙
- 192 かつてスプーン曲げは誰にでもできた
- 196 右でも左でもなく、天へ進むべし！
- 201 ネットでボロクソに書くのは弱虫のやり方
- 205 竹内「秋山先生は古代史を狙っている」
- 210 竹内氏は日学同の査問委員長だった
- 213 「対心理情報戦で歴代天皇を覚えさせた」
- 217 神武天皇の即位は西暦五〇年ごろである
- 222 秋山氏が語る太田竜の思い出
- 225 秋山氏が語る高坂和導と「竹内文書」の関係
- 230 秋山氏が語る出版界重鎮の武勇伝
- 233 生の生命力を表現できる人間は素晴らしい

第二部 古神道と風流と異次元ワールド

—— 古史古伝とUFOの衝撃事実がついに判明！

第六章 「雅」とUFOの不思議な関係

- 240 盟神探湯くかたちと釜鳴りで火傷をした二人
- 244 教団をつくるのは本当に苦勞する
- 246 釜は神祕的世界への入り口を象徴
- 250 華道も茶道も伝統儀式には靈的な裏がある
- 254 ニュータイプの歌人笹公人氏登場
- 259 笹公人「秋山先生に巨大UFOを見せてもらいました」
- 263 UFOは震動しているので撮影が難しい
- 265 秋山真人、「宗匠」にUFO製造の極秘情報を伝授
- 271 秋山真人、「宗匠」に靈界の真実を明かす

第七章 神仕組みと超常現象

- 276 大衆の集団無意識と直結している時代霊を読む
- 280 秋山氏と「宗匠」は骨董屋の商売敵だった!?
- 283 巨大UFOの出現で人生観が変わる!
- 287 超能力者はUFOと幽霊の両方を目撃する
- 290 儀礼の向こうにある異次元世界の奥行き
- 296 スプーン曲げの清田氏曰く「秋山さんは宇宙人」
- 300 UFOを見た後、金色の大黒様が出現
- 303 時代と連動して動き出した白山菊理媛
- 307 本の出版によって起こる霊的な反響
- 310 無視されるのが一番怖い「地火明夷」
- 314 出口王仁三郎と竹内氏の意外な関係
- 317 大本・出口王仁三郎の神仕組みとは何か
- 321 現代にも流れるオニ系となお系の二つの霊系

- 325 UFOとウナギパワーの秘密
- 330 菜食と肉食、テレパシーと念力の関係
- 332 ウズベキスタンとウクライナの言霊論争
- 334 今明かされる「たから」と「440ヘルツ」の法則
- 345 「の」を付けて宇宙のエネルギーを引き込む
- 347 八をテーマにすれば宇宙の話になる
- 349 「八」で神様の椅子が用意される
- 352 八重歯にはお祓いの力が宿っている
- 354 大もめにもめる八神殿の建造
- 360 霊的な作用は最初に結果を作って原因を変える作業
- 363 釈迦が残した「嘘も方便」の本当の意味
- あつちの世界で空海は今でも生きている
- 道を究めるために先達たちは言葉を飲む

第八章 古神道の儀礼とU F Oの秘密

- 366 秋山真人、治療用の小型U F Oについて語る
- 369 中尊寺ゆつこと編集者が相模湖で巨大U F Oを目撃
- 376 秋山真人と竹内睦泰の対談はU F Oがつなげた
- 377 新宿にもU F O目撃スポットがあった！
- 380 古代出雲大社とエジプトのピラミッドは同じもの
- 386 微妙にずれていたピラミッド内での儀式の顛末
- 389 時間、空間、人間が揃ってこそその儀礼がある
- 393 竹内神道の奥義にもある秘儀「微笑み返し」
- 397 剣を持って「情報を出せ」というスサノオ系気質
- 402 秋山真人が語る別の惑星の世界
- 407 だれにでもできる「魂の故郷の星」の見つけ方
- 410 秋山、竹内両氏、一霊四魂について語る
- 415 宴会が儀礼を迎えた瞬間にU F Oは出る

434 427 418

秋山眞人、UFO原動力のメカニズムを語る
秋山眞人、自分の寿命を改めて霊示で知る
ユリ・ゲラーの11から米寿の会の88まで

437

あとがき——「正統竹内文書の日本史」とUFO

秋山コラム

- 25 ユリ・ゲラーの自動書記画の勧め
- 33 宇宙を表す数字と易の落とし穴
- 37 易による自分の数字の出し方
- 179 若さを保つ秘訣
- 195 超能力 vs 手品…スプーン曲げの背景には石文化と鉄文化の対立のトラウマがあった
- 275 パワーストーンとお化けと微生物——摩訶不思議な秘密の関係
- 299 秋山眞人が伝授するスプーン曲げの極意
- 343 〈す〉と〈ゆ〉は宇宙のブラックホールとホワイトホール
- 359 釈迦のハンコ(印)
- 425 十種神宝はUFOの部品か

竹内コラム

- 29 位山の神事
- 76 信長殺しの真相
- 112 夢と現実のはざまに存在する神秘体験

- 319 219 199 149 135 125 91 63 423 341 329 243 190 177
- 若返りの行法
冥王星に行ってきた!?
氷室家について
うどんはへはれへに食べるもの
へスとへユの言霊の秘密
十種神宝と竹内神道
- 布施コラム**
- 63 中川つぶしの謀略説
91 スサノオの八王子
125 謎のヒコホホデミ王朝
135 ループ文字と縄文
149 ハングルは神代文字か
199 ダメージコントロールというアメリカの手口
219 卑弥呼の謎と神武天皇即位年
319 松竹梅の神仕組みと大本事件

カバーデザイン 三瓶可南子

章扉イラスト 荒木慎司

人物写真 新田健二

写真協力 石本馨 / [wikipedia commons](https://commons.wikimedia.org/) 他

校正 エッグ舎

本文仮名書体 文麗仮名(キャップス)

本書は2012年8月にヒカルランドより刊行された『正統竹内文書の日本史「超」アンダーグラウンド②』の新装版です。

※年月日や人名・役職等は旧版のままに表記しています。

第一部 古神道と数秘術と西洋科学



布施「竹内さん、今回も正統竹内文書の秘密をズバズバ聞きますよ」
竹内「ダメです。私の言いたいことは、すべて秋山先生が話してくれま
すから。秋山先生は、常識人すぎる。もっとブッ飛びましょう！」
秋山「竹内さんみたいなタイプは大好きなんです。実は、こうして竹内
文書について語るのには、深い縁があるんです……」

第一章



数・占術をめぐる
東洋と西洋の文明的衝突

神懸かりしたときの絵とユリ・ゲラーのシンクロ

布施 今日、岐阜県の読者から送られてきた、この写真から鼎談を始めたんですが（掛け軸の写真を秋山氏と竹内氏に見せる）。富山の古物商から手に入れたそうで、正統竹内文書と関係があるのではないかということで、出版社に送ってきたものです。何か心当たりはありませんか。

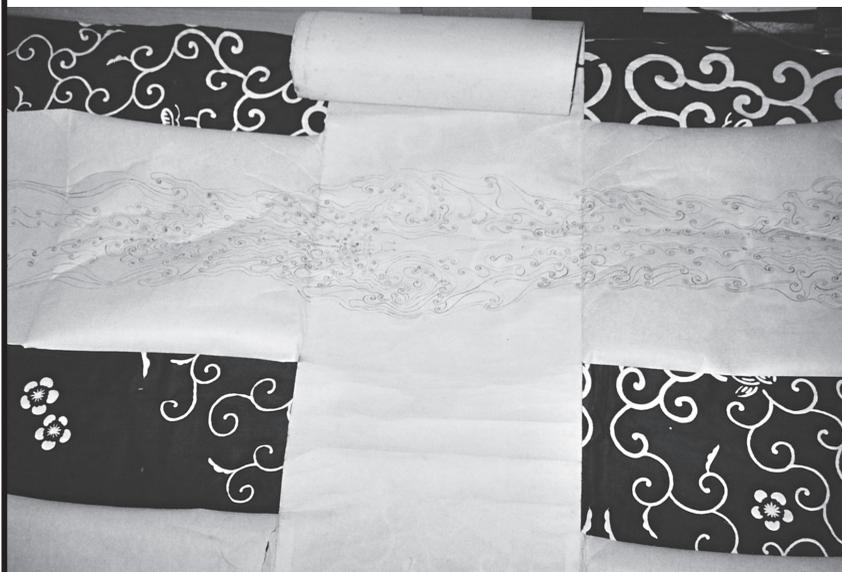
秋山 何か神懸かりしたときに書いたような掛け軸ですね。

竹内 なんかそんな感じですね。特に心当たりはないですが、面白いパターンですね。

秋山 だいたい神懸かりしたときにはこのようなパターンを描くことが多いですね。自動書記のようにバーツと一気に描く。

布施 私も昔、振り子を使って自動書記のように絵を描く、茨城県の画家・海後人五郎かいごじんごろうさんの「カムナガラノミチ」という絵を見たことがあります。見たこともないようなパターンが何と

布施氏の読者から送られてきた謎の掛け軸の写真



写真提供：上村晃

全長一五〇メートルも続く大作なんですが、本当に神懸かっていますよね。

秋山 友人のユリ・ゲラー（一九四六年）。イスラエル・テルアビブ生まれの「超能力者」。一九七〇年代にスプーン曲げなどで一大旋風を巻き起こした。母はマンジー・フロイトで、精神分析学の祖ジークムント・フロイトの親類）も時々、インスピレーションが降りてくると、ダーツと一気に描きます。この絵も神懸かり的にユリが描いているんですね。

竹内 かなり神懸かっていますね。

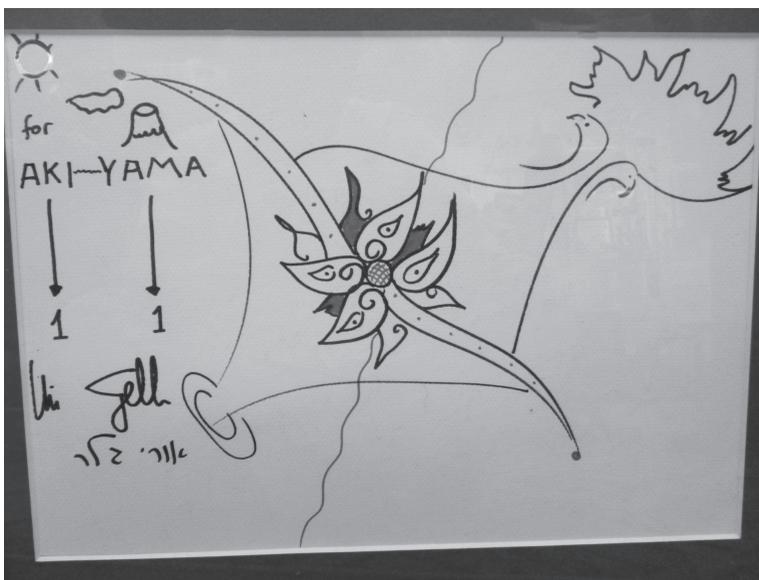
秋山 こういう風にいるんなシンボルの集まりで表す。火のエネルギーをとて強く感じますね。そのシンボルによって、何かその時代のエネルギーとか変化をよく表しているように思っていますね。

布施 時代の変化やその時代の人々の潜在意識をシンボルとして描いているわけですね。

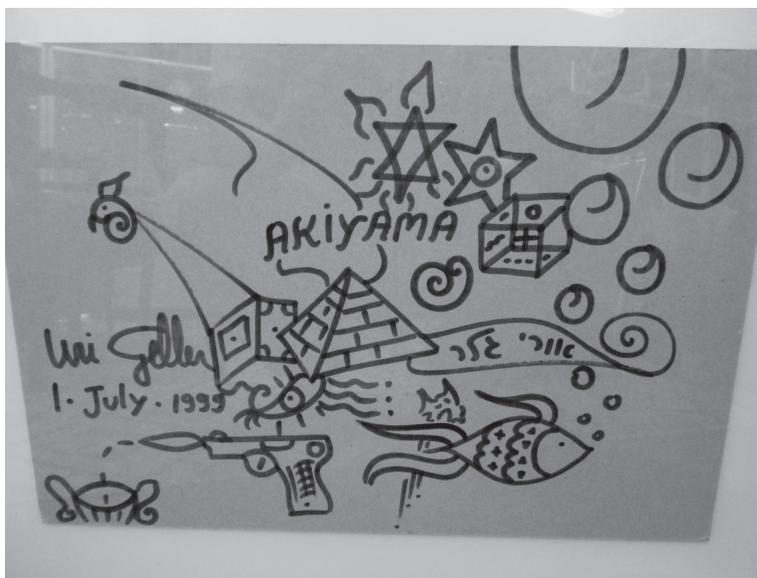
秋山 そう。数字のシンボルなんかも出てくる。ここに11という数字があるでしょ。ユリと11には非常に深い関係がある。ユリの周りで11のシンクロニシティがバンバン起こるんですね。とにかく何でも11が現れる。ユリがサラダを食べたいって言って、知り合いがコンビニまで行ってきて、買ったたら、その商品番号が11だったということがありました。

布施 それほど11に付きまとわれているわけですね。

ユリ・ゲラーのイラスト



「11」というユリゲラー特有の数字が左側に見える



1999年のイラスト

いくらでも解釈できると思うかもしれませんが、いつも絵を描いている人が突然、シンボルの羅列を描きなくなったときというのは、これは何か異様なことが起きていると解釈すべきなんです。異様なことの予兆が起きている、と感じることができるんです。やはりノートの落書きを含めて、時々人間は気ままに落書きを描いてみることを勧めます。そこにどのような形が現れてきて、自分の描きたい衝動がどう変わるのかを観察してみるといいと思います。激しい線を描きたいのか、滑らかな線を描きたいのか。そういうこととちょっと未来、自分に起きるちょっと先の出来事とを比較してみたときに、意外と自動書記的なことというのは、予言的性質を強く帯びているということがわかるものなんです。たまにストレスがたまったら落書きをしてみよう、ということです。ストレスのはけ口になるだけでなく、意外と面白い絵になるかもしれないし、人を癒す絵になるかもしれないのです。激しい絵というのは、弱っている人にとってはパワーの源になるんですね。穏やかな絵はパワーの余っている人には鎮める効果がある。えてして激しい人のほうが、激しいシンボルの絵を欲しがります。パワーの弱い人のほうが穏やかな絵を求めます。本来は逆のほうが、靈的に強くなります。



写真A



写真B



ユリ・ゲラー的自動書記画の勧め

ユリの絵は、能力者が描く典型的なパターンなんです。能力者が自動書記で描く絵というのは、複雑な細かいシンボルの羅列が多い。で、やはり予言性がある。僕も長いこと自動書記で絵を描いているんですが、だいたい3年ごとに作風が変わります。ものすごく細かい、回路図のようなシンボルの羅列で描く場合もあれば、とても写実的な感じでスケッチを描かされる場合もあります。それが時に応じて変化するんです、3年ごとに。厳密に言うと、3年6か月ごとに変化します。

特にシンボルの羅列が出てくるときというのは、その自動書記自体は予言的な意味合いがあることが多いんです。2周期で7年。3.5日、3か月半、3年6か月、7年というのは、非常に重要な霊的な循環・周期でもあります。その周期ごとにいろいろな啓示がもたらされることが多い。そういう意味では、今までの黙示録と称されるものは、シンボルの羅列にほかなりません。『新訳聖書』のヨハネの黙示録にしても、あれは元々描かれた絵があったのではないのでしょうか。ノストラダムスでさえ、実は金属製のフォークで水面をかき混ぜながら、水面に現れた映像で未来を予知していたとされています。日本の古神道でも湖の水面に現れたいろいろな形で未来を予言するという習慣があったんです。それらと同じように、ユリの絵も霊的だと思いましたね。

たとえばユリがこの絵（写真A）を描いたのは、2011年の東日本大震災の1年くらい前でした。真ん中が割れている赤い色を基準にした絵です。今見てみると、まさしく断層と津波っぽく見えます。激しい転換期を示すような絵です。もう1枚の絵（写真B）は1999年に描いてくれました。たまたま写真をユリにプレゼントしたら、その写真の下敷きに入っていたボール紙をひょいっと取って、マジックで描き始めたんです。そこにはルービックキューブのようなものやピラミッド、ピストル、杯などいろんなものが描かれていました。今までユリ・ゲラーの中に起きてきたドラマのシンボルを全部吐き出したような絵でした。世紀末でリセット、ガラガラポンみたいな感じでしょうか（笑）。箱の中のをひっくり返したような絵でした。

古神道の秘儀ではイチイは「1」であり、神を降ろす数字だった

竹内 ユリ・ゲラーは11（じゅういち）と言いましたか。イレブンと言いましたか、そうじゃなく、1と1に関心を持ちましたか？

秋山 要するにですね、1と1という羅列なんです。

竹内 そうですよ。間違いなくイレブンじゃない。イレブンじゃないんですよ。

秋山 1と1の羅列なんです。

竹内 そういうの、大体わかります。実は物部もののべの神宝かんだからの行法にあるのが、ひー、ふー、みー、よー、いつ、むう、なな、や、ここ、たり、で終わっているでしょ。でもあの後ろがあるんです。

秋山 ほう。

竹内 あの後ろがあるんです。実は物部氏を倒したとき、わが武内一族が奪った言霊ことたまがありま

す。

「ひー、ふー、みー、よー、いー、むう、なな、や、こと、たり」の後、しやく笏に落とすんです、神を。ももち、よろず、つて。笏を返して「ももち（百千）」「よろず（万）」です。つまり全部「1」です。

ももち、よろず——百、千、万と言って、降ろします。

秋山 なるほどですね。確かユダヤの数の数え方もそうなんですよね。

一〇から先、一〇〇、一〇〇〇、一〇〇〇〇と数える。古代のユダヤの数え方です。

竹内 それも、ももちよろず、です。だから古代ユダヤと古神道が整合性というんじゃないけど、すごく合っちゃっているんです。だから日ユ同祖論が出てくる。

布施 確かに似たところが多すぎますね。

竹内 偶然ではないです。古神道の場合は、ももち、よろずと言って神を降ろす。イチイの木に降ろす。イチイの木に降ろすから、また一なんです、これが。

布施 なるほど。イチイだから、ここでも一ですか。

秋山 やっぱり笏はイチイなんだ。位山はたぶん日本最古のピラミッドだと思っただけけど、そこに生えるイチイの木は天皇家でも大切にされる。

竹内 そうです。だから、本当はモトフミクライヌシじゃなくて、「元主」で「もとす」、御で

「み」、位主（クライヌシ）なんです。モトスミクライヌシです。

布施 モトスミクライヌシ
元主御位主ですな。

竹内 だからそれが、正統竹内文書の神名です。

布施 茨城の竹内文書の「もとふ」は違う、と。

竹内 あれは違うんです。何で違うかっていうと、あれは形がないということの意味するため

に「元無極体」と書いたんです。だから本当はモトスミクライヌシの大御神です。

布施 モトスミクライヌシ
元主御位主大御神。

竹内 はい。それで、降ろすときは必ず「ももちよろず！」と言って降ろして、ここの笏に降ろして、木に降ろして、神事を行います。我々はそうしてきました。